

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。



テルモ株式会社

2023年8月10日

## 2024年3月期 第1四半期 決算説明会 質疑応答

2023年8月9日に開催した決算説明会における質疑応答は下記の通りです。

山口様：シティ山口です。ありがとうございます。

血液システムのところで、CSL 向けの Plasma の話が全然なかったんですけど、数を含めてどうなっているのかを、状況と通期当たりに対する進捗について教えていただけますでしょうか。

テルモ 畑：ありがとうございます。前回5月の決算のときに申しあげましたところからの進捗でいきますと、大きなところはノモグラムと申しあげていましたけれども、血漿を多く取るための、このアルゴリズムの知見のエンロールが終了しています。これが5月末に終了しています。FDAの承認の時期は明言できないんですが、だいたい1年ぐらいを考えております。

それが大きな進捗で、依然としてまだ限定上市、LMRと呼んでいますけれども、そのステージにあります。予定どおり今期の下期の間にフルのディプロイメント、本格上市に移行するのも含めて、あまり変わっていないですね。

ちなみに前回までは、8センターと申しあげていたのも、今、数は増えていますけれども、もうちょっとまとまった数になるとお伝えしようと思います。以上です。

山口様：分かりました。あくまでも、下期から動き始めるということですね。

畑：そうです。はい。

山口様：いつまでというのは、中計期間中と前回変わったと思うんですけど、それも変わっていない

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

ですね。

畑：それも今のところ変わっていないですね。はい。

山口様：分かりました。あと、価格政策の120億のQ1の進捗がありまして、だんだんたまっていくということでもよろしいかと思うんですけど、Q1だけ見ると通期に対する進捗は必ずしも高くないので、それが一つのポイントだと思うんです。

この価格政策については、このQ1の進捗でいけば、通期この120億は十分いけるということと、あと、ビジネス領域ではどこが多いのかもフォローアップをお願いします。

畑：8枚目のスライドですね。この左側の円グラフで表現しています。右側の収益改善策も同じような形なんですが、上下で見ると下期に6割以上が寄るのがもともとの想定です。

大きなのが、全体の値上げのところ、120億のうち、半分以上6割弱がMCSで効いてきますが、Q3からの第2ラウンド目の大幅な値上げをしますので、やはり下期にぐっと一段高く貢献していきます。

なのでQ1だけ見ますと、意外と心血とMCSが同じぐらいの値上げの効果出していまして、BCTも長期のコントラクトが多いので、あまり期待はしていなかったんですが、今期は、やはりまとまった数で値上げをやるということで、今、割と均等に3カンパニーで出てきています。

でも、下期に入ってくると、MCSの値上げがぐんと一段高くなりますんで、通期でいくと120億の、今、進捗は順調だと考えてます。

山口様：ありがとうございます。私からは以上です。

葭原様：UBS証券、葭原です。よろしく願いいたします。

1点目は、この1Qの営業利益について、おおむね想定どおりということではあったんですが、若干、為替の追い風もあったと思いますので、現地通貨ベースで見たときにどうだったのかをまずお伺いさせて

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。また、この資料に含まれている製品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

ください。

畑：営業利益は、実はフローのほうは増収増益に効くんですが、マージンで見るとちょっと低下させる、そもそも効果になります。売上のほうがエクスポージャーが大きいので、ということになりますね。

ただ、今回は6月末で円安に振れていますので、為替のストック、いわゆる棚卸、在庫の内部利益消去が大きく効いてまして、これ35億マイナスに入ってます。ですので、単純に年度の計画に対する今OPの進捗で見ると22~23%の進捗になりますけれども、この35億円の為替のストックの影響、マイナスを足し戻すとちょうど25%ぐらいの進捗になって、いつもだいたい上下で、下期のほうトップラインも利益も出てきます。それを考慮していただくと、Q1の進捗としては、トップラインも利益も順調だというのが我々の自己評価です。

葭原様：承知しました。そこで、部門別の定性的なC&Vが上振れとか、何かそういうのはありますか。

畑：C&Vは順調ですね。この年度の計画の進捗を見ましても、だいたい4分の1ぐらい。逆に血液のほう、今ぐっと進捗がもう半分近くまで、通期の利益まで見るといってますが、これちょっとワンタイムの良い要因も入っていますので、この血液、14%のQ1マージン、このままは実は残念ながらいいないので、やはり10%前後辺りまで、Q2以降は落ち着くと思います。

一方で、このMCSが年度の進捗、利益面で見てもトップラインもそうですが、ちょっと弱いですね。これは先ほど申しあげましたとおり、下期でぐっと一段値上げをやっていくということと、そもそも今、ミックスが成長のドライバーであるCDMOのビジネスが、今期は上下でいくと、割と極端に下期に出荷が偏ります。下期に入りますとミックスの改善と、あと値上げが進みますので、なんとか年度内にはキャッチアップするつもりでおります。

でも今、Q1だけ見るとMCSがちょっと進捗遅く見えます。

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

葭原様：承知いたしました。ありがとうございます。2点目は、販管費についてお伺いします。

こちらも1Qの販管費が、社内の計画に対してどうだったのか、為替を除いたベースでお伺いできれば助かります。その上で、細かいデータを拝見しますと、人件費とあとその他のところが増えているようなので、その内訳を教えてください。

あと、ちょっと他社様の決算も含めて考えると、為替の影響があっただと思うんですが、割と販管費が膨れて多くなっているケースが多いなと思っています。例えばなんですけれども、今、欧米の企業との競争もそれなりに激化しているのかなという印象もあります。エンデミックでですね。その結果として、販管費を結構、投下しないと、売上が上げられないみたいな、そういった状況があるのかも、併せてご確認させてください。

畑：ありがとうございます。販管費のところは、ちょうど6枚目の、いつものウォーターフォールで見てくださいと、為替の影響はそもそも右によけていますので、現地通貨ベースで見れると思います。

確かに、この一般管理費の増加でマイナス59億円ですので、通期の170からすると、進捗でいくと35%ぐらいいってるので高く見えますけれども、実はYoYで見ると、前期のQ1が費用が低かったんです。Q2、Q3、Q4の平均と比べて、去年のQ1は40億ぐらい費用の水準がそもそも低かったなので、その比較で見ると、今、進捗が高く見えるんですが、たぶん年度でいくと、いわゆる計画でいくと想定どおりですので、通期で突き抜けることはないと思います。

ただ、投下しているのは、ご指摘あったとおり人件費が多くて、やはり成長のドライバーを持っているニューロですとか、TA（血管）の部門で今、適応拡大をしたりしています。そこでぐっと今、販売を掛けている、そこにリソースを掛けております。これで回答になっていますかね。

葭原様：はい、ありがとうございます。特段、何か競争が激化していて、販促費を今まで以上に投下しな

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

いと、例えばコロナ前より特化しないと売上伸ばせないとか、あんまりそういうことは考えなくていいですか。

畑：はい。基本的には、ニューロも TA も、製品そのものに差別化の要素を持っていますので、販売力の勝負にはなっていないと思います。

葭原様：承知いたしました。ありがとうございます。

テルモ 武藤：葭原さんね、社内的な管理という質問、コメントがあったと思いますけれども、計画に対しては、社内計画の範囲の中でコントロールしているのが Q1 です。

葭原様：なるほど。でしたらちょっと 1Q だけを比較すると、やや多めに出ているように見えるという捉え方のほうがよろしいですね。

武藤：そうですね。はい。

葭原様：承知いたしました。ありがとうございました。

林様：モルガン・スタンレーMUFU 証券、林です。よろしくお願いします。

2 点ということで、まず 1 点目は資料の 7 ページに今期、計画に織り込んでいらっしゃるいろんな項目の分解があります。インフレで 25 億円のマイナスを見込んでいらっしゃるかと思います。

確か結構複雑で、心臓血管なんかではインフレの収束によって、利益にポジティブに働く要素もあり、TMCS では国内の電力代の高騰によって、ネガティブ影響が 25 億より大きかったりするかと思うんです。こういうもともとのこの通期の計画に対して、1Q のインフレの影響は、金額があれば教えていただきたいんですけども、どうだったか。心臓血管の利益増のインパクトと、テルモメディカルケアソリューションズの電力代の高騰による影響と、分解すると 1Q の進捗どうだったんでしょうか。

畑：これも、そうなんですよね。複雑ですが、Q1 だけ見ますと前の直近のクォーター、前期末の Q4 と

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。また、この資料に含まれている製品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

比べて全体としては横ばっています。ただ、フレートだとか電気代は緩和してくる兆しは今、見えていますので、この Q2 とか下期に入るとよくなってくるんだろうなとは思っています。

ですので、この想定としてはマイナス 25 億、やはり電気代が高騰するだろうということは、これよりも、この想定よりも悪くならないだろうというのが今の見込みですけれども、もうちょっと様子見ないと分からないですかね。

カンパニー別でいきましたも、そもそものグロスの額が横ばっていますので、あんまり、このカンパニーに有利、不利というところまで、その規模でまだ動いていないのが現状です。

林様：分かりました、ありがとうございます。2 点目は TBCT、血液です。

今回、為替影響除きで前年比 14%増収です。ただ再三、入札関係の一時的なものという表現が多いわけですから、Q2 なんかはあまり 14%も増収にならない、あるいは通期のガイダンスに対して、特に上振れているわけではないという解釈が正しいのでしょうか。

畑：はい。去年と比べて、そうですね。4%ポイント上がって、直近のクォーターでいくと 20%ポイント近く改善しています。ただ、先ほども少し申し上げましたとおり、トップライン自体に、この先同じペースでは続かないだろうという入札も入っていますし、あと原価のほうでも期首特有の、在庫の評価替えでプラスに働いているものもありますので、さっき申し上げたみたいに利益は 10%前後でこの先は推移するだろうなと思います。

トップラインは進捗が 27%ぐらいですよ、年度の計画に対して。ここはある程度、この数水準で移行するか、やはり 25%ぐらいなので Q1 は両方強いですね。トップラインも強いし利益も強かったと見ていただければいいかと思います。

林様：すみません、ちょっと質問がややこしかったかもしれないんですけど、トップラインの売上の伸

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

び率が為替影響を除きで前年比プラス 14%、これが Q2 とか下期は続かないと見たほうがいいんでしょうか。あるいは、続かないとはっきり見るべき理由があるんでしょうか。

畑：そうですね。この二桁では続かない。14%は強いと思います。入札が入っていますので。

林様：入札、1Q 限定の話なんですかね。

畑：これが結構、あんまり先まで読めないところがあるので、同じように取ればこの水準ではいくんですけども、ちょっと今、コンサバに見ています。やはり 10%ぐらいに落ち着くだろうとは思っています。

林様：承知しました。私からは以上です。ありがとうございます。

徳本様：日興証券、徳本です。よろしくお願いします。

質問の一つ目が、C&V、心臓血管の 2Q 以降の見通し、肌感覚についてお伺いしたいです。進捗は計画どおりということですが、海外系の会社が治療機器を中心に、見通しが少し上がってきている中で、御社の北米の数字は心臓血管については結構いいかなという気がしております。

御社自身の感覚として、市場の伸び、回復を心臓血管がビートできていると思われているのか、まず最初に確認したいと思います。

畑：心臓血管全体で見ますと為替除きで 7%ですね、YoY。QoQ で見ると TIS だと為替除きで 8%ぐらい伸びています。ただニューロがちょっと弱いんですね。これは、中国のニューロが特別弱かった。マイナスになっています。ここは VBP が起こるだろうということで、今ちょっと末端では買い控え、値下がり期待した買い控えが起こっています。

ですが、ちょうど中国の TIS であったように、中国の TIS は去年見ますと、Q1 が一番売上高くて、Q2、Q3、Q4 とどんどん下がっていったんです。これは VBP が起こるだろうということで、買い控えがあったんですが、どうやら一旦はその懸念が去ったようだということで、この Q1 見ていただけると、中国の

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

TIS、反動で大きく伸ばしています。

なので、同じようなことが起きると、このニューロの中国、今ちょっと買い控えがあるんですけども、それが戻ってくるだろうと考えてます。なので、今よりも強くなる、この先強くなる要素の一つがニューロのVBP、中国です。

もう一つはこれもニューロで、これ今、瘤を治すWEBですとか、FREDは非常に好調でご指摘いただいたとおり北米では二桁で伸びていますが、脳梗塞、ストロークを治すほうのSOFIAという非常に強い製品を持っていますけれども、一部ちょっと部材が足りなくて、本来であれば出せる注文が入っていても受注残をちょっと抱えています。

これが解消してくると、下期に入るとより伸びていきます。ということで、ちょっと今、Q1がフルスイングしていない要素がいくらかあります。それでもYoY7%なので、後半に掛けて1%ポイントぐらいは、少なくとも伸びてくると考えています。なので、競合にそんなに遜色ないパフォーマンスを、この先は出していけると思っています。

徳本様：ありがとうございます。二つ目もC&Vのところ、今度は利益の考え方です。

売上2Q以降、かなりポジティブで見れる材料がいくつかあるというトーンだったと思いますが、この北米の治療デバイス、ニューロと血管とかなんですかね。ここに向けた投資は、2Qないし下期には、それなりにこの売上成長として見えると思っていますでしょうか。

この利益の投資の回収によっては、C&Vが上振れる余地もあるのかな、というのがちょっと気になったので、その観点からの質問になります。私からは以上です。

畑：販売投資で今、ちょっと掛けてます。重要な製品について掛けてますけれども、これが毎クォーター、毎クォーター同じように足していくかという、そうではないので、通期のガイダンスは達成できると



テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。また、この資料に含まれている製品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

思っています。

特に Q1 は先ほども少し申し上げた、為替のストック影響が、大半が実は心臓血管に掛かっていますので、本来であれば 21%、Q1 の心臓の-margin。本当は 2%ポイントぐらいその為替のストック影響なければ、もうちょっと上にいってましたので、為替がどうなるか分からないんですが、少なくともそれがあったとしても、通期の予想にはなんとかできるようにいけるのではないかなと思います。

徳本様：私からは以上です。

春田様：クレディ・スイス証券の春田です。お願いいたします。

収益改善策について、先ほど下期から行っていくというところでいくつかご説明していただきましたけれども、下期から強めの価格引上と言っていました。それを踏まえて、それを前に買い控えとか、そういったところは心配しなくていいのかということと、どのように価格引上を今、行っているのか、その進捗の状況についても少し、具体的にオペレーションについて教えてください。

武藤：じゃあ私から。価格政策ですけども、下期からにつきましては、特に日本ですね。日本についての価格のお願いを、もうすでに代理店さん、ユーザーさんをお願いしている段階でございます。10月から開始ということで、ここが大きく発現すると期待しております。メインは、やはり TMCS になります。こちらが 10月から、刈り取りが始まるところでございます。

ほかの生産につきましても、コメントの中でも述べましたが、コスタリカの生産移管が順調に推移していきますので、それに加えて愛鷹国内の改善、こちらも進んでくるということになります。年間で、ここにありますように 36 億円、そのうちの半分以上が下期となります。

春田様：ありがとうございます。TMCS のところは、具体的にどういった品目か、おさらいをしていただけますか。

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。また、この資料に含まれている製品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

武藤：基本的には、ホスピタルの基盤医療器という品目がメインになりますね。

春田様：分かりました、ありがとうございます。2点目、TMCSのファーマシューティカルソリューションです。

ご説明のとおり、納品時期が変動しているところで、1Qが少し低くなっているかもしれないですけども、今年の受注というか、受注の展開では見通しの変化はなくというところで、ここは順調であるということでしょうか。

レカネマブで、御社のオートインジェクターとかをやっているかと思えますけれど、これは比較的案件として大きめの案件なのかを、少し教えていただければと思います。

畑：ありがとうございます。一つ目の上下は、今年は例年になく下期に寄るのは想定どおりですので大丈夫です。下期にキャッチアップしてまいりますのでご心配なく。

さっきのアルツハイマーは、われわれとしてははっきりと薬の名前を言うことは薬機法上できないのですが、今期にはまだ貢献しないのですが、このGS26の中では大きな弾として、もともと想定しているパイプラインですので、大きいです。どれぐらい大きいかなかなかお話しできないんですが、小さくはないです。

春田様：ちなみに、売上は日本で立つ可能性があるんでしょうか。

畑：日本を含めてどこまでというのも、すみません、契約上なかなか言えないので、ニュースになっているところ、だいたい期待していただいていたのかなと思うんですが、はっきりと申し上げることはできないです。すみません。

春田様：承知いたしました。ありがとうございます。

山崎様：お世話になります。三菱UFJモルガン・スタンレー証券、山崎です。よろしくお願ひいたしま

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。また、この資料に含まれている製品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

す。

1点だけなんですけれども、心臓血管のニューロの、中国の集中購買につきまして、それに関します時期ですとか、仕切り価格への見通しなど、何か御社で把握していらっしゃる情報がございましたら、シェアしていただけないでしょうか。それに加えて、収益性に関する考え方についても教えていただきますと助かります。よろしくをお願いします。

畑：われわれの商売の規模としては、TISのほうが圧倒的に大きいので、だいたい事情は似たようなことだと聞いています。VBPがいよいよこのTISのアクセスですとか、ニューロのコイルには、もう一部来ているという話も聞きますけれども、肝心のそのことによって症例数が伸びるのは、Drug-eluting stentsなんかを見ている事実です。

数が増える、ただしどれぐらい価格がメーカーにとって落ちてしまうのかは、末端価格がざっくりですけども、50%以上落ちると代理店だけでは吸収できずに、メーカーにまで影響が来ると言われています。今のところそこまでの手前で、食い止められるんじゃないかという想定をしています。

ただ、ちょっとここはいかんせん、リスクがありますので、われわれの業績予想の中にも少しリスクを織り込んで見えています。今のところ大きく収益が悪化するようなリスクにはならないというのが、今の見方でございます。

山崎様：承知いたしました。どうもありがとうございます。

山口様：すみません、大丈夫ですか。1個だけ、確認お願いしたいのですが。

畑：はい、お願いします。

山口様：ありがとうございます。今のお話で、ほかの会社で話題になった中国で、腐敗防止法で結構、入札に影響が出ているというのが出たんですけれど、御社のビジネスは入札が少ないから影響はないかな

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。また、この資料に含まれている製品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

と見ているとか、もし何か御社として、影響を含めて把握されてたら、教えてください。

畑：それは今、私のところにはまだ来ていないですね。ヒアリングは掛けているんですが、そこが話題になったことはないので、ちょっともう一度、確認しておきます。今のところないと思います。

山口様：ありがとうございます。

バーカー様：ジェフリーズ証券、スティーブン・バーカーです。ありがとうございます。

2点お伺いしたいんですけれども、中国について手術の件数、どのような点があるのか、まずお聞きしたいと思います。

そして、血液、CSLさんとの取引に関して、何かアップデートがあるのか。特に、Blood cell 事業の利益性が改善したのは、CSLさんとの取引、何か関係があるのかどうか、よろしくお願いします。

畑：一つ目の中国の件は、やはり TIS を見るのが一番いいかと思います。中国の売上の8割以上が心臓血管で、心臓血管の8割以上が TIS です。症例数で見ますと、本来であると、Q4 から Q1 に掛けて、季節要因的には少し症例数縮むんですけれども、実際には症例数は増えていると現地からは聞いています。

そのことと、先ほどから申し上げている VBP をにらんだアクセス製品対象の、その買い控えが今解消して、リバウンドしています。

症例数が増えたことと、かつ VBP の買い控えが解消したという、この二つのいい要因が重なって、QoQ で見ると中国 TIS、37%ぐらい増えています。なので症例数のご質問にだけお答えすると、症例数は全然減っていないと。むしろ増えていると聞いています。

二つ目の CSL のアップデート自体は、われわれ先ほど冒頭申し上げました、ノモグラムの治験が、エンロールが完了したということぐらいですが、そうですね、収益的には変化はないですね。売上がそもそも立っていないので、同じようなコストが、ずっとこの前クォーターから続いています。

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

今、BCT 全体の収益がよく見えているのは、完全にコアと呼んでいます既存事業での改善です。トップラインが上がって、費用の改善、値上げなんかも進んだことが要因ですので、CSL 自体の数字は前クォーターから変わっていませんね。

バーカー様：ありがとうございます。以上です。

以上